

指標名：ESPフォーキャスト調査(2009年6月)

発表日：2009年6月8日(月)

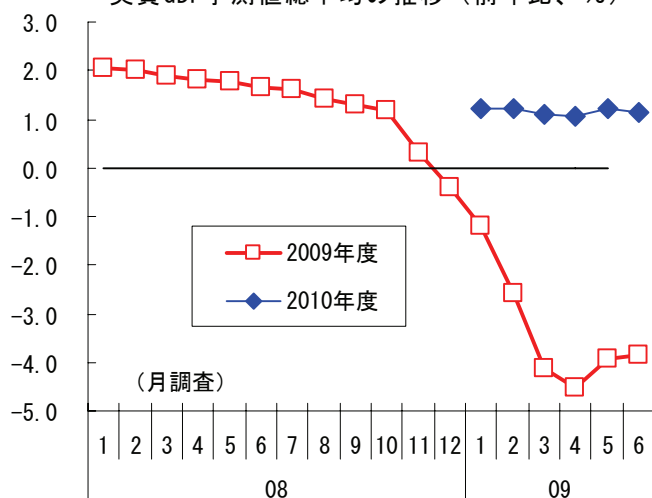
～ 成長率見通しは2ヶ月連続で上方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部

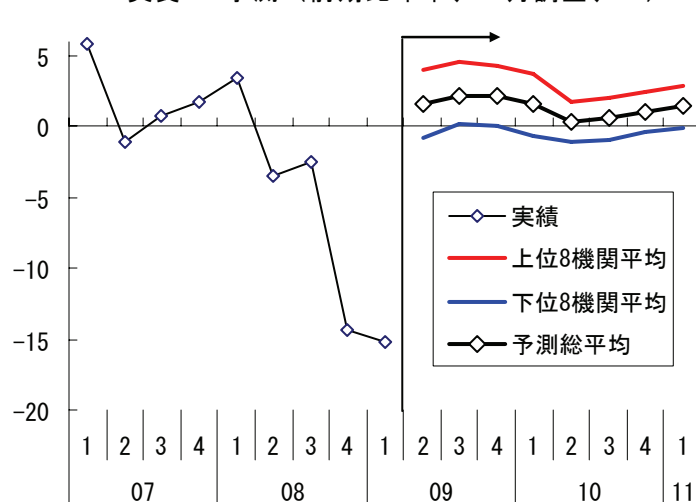
担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528

実質GDP予測値総平均の推移（前年比、％）



実質GDP予測（前期比年率、6月調査、％）



（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ 2ヶ月連続で上方修正

本日、経済企画協会から6月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、40のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。

09年度の実質GDP成長率予測は前年比▲3.86%と、5月の▲3.93%から若干上方修正された。09年度に対する調査が開始された08年1月調査以降、コンセンサスは15ヶ月連続で下方修正され、特に昨年秋以降の下方修正幅は毎月かなり大きくなっていったが、5月、6月と2ヶ月連続で上方修正されている。在庫調整の進展によって生産が足元で持ち直していることや、経済対策効果の発現が今後期待できることなどが背景にあると考えられる。

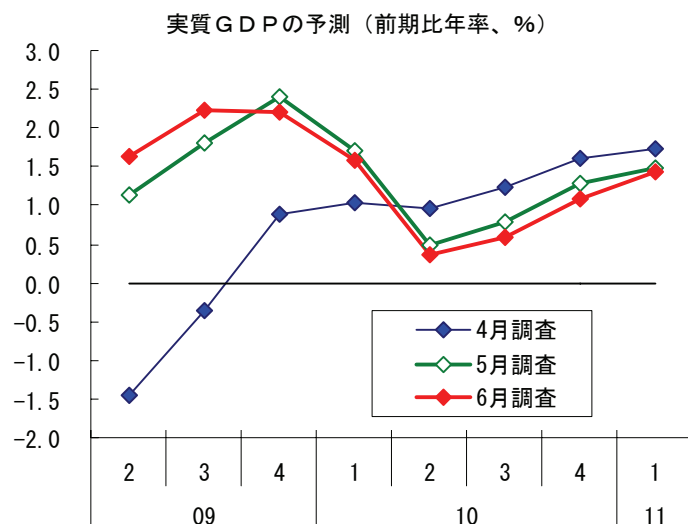
このように、エコノミストの景況感はこのところ上向いており、フォーキャスター37名中25名が「景気の転換点は既に過ぎた（谷をつけた）」と回答している。足元の景気が回復局面にあるとの見方は完全にコンセンサスになったようだ。

○ 4-6月期の成長率見通しが上方修正

四半期別にみると、09年4-6月期の成長率見通しが前期比年率+1.63%と、前月調査（+1.14%）からさらに上方修正されたことが目に付く。①4月の貿易統計で輸出が前月比で増加し、輸出の持ち直しがはつきりしてきたこと、②4月の鉱工業生産指数と5、6月の生産予測指数が強めだったことから、4-6月期の鉱工業生産が予想以上に大幅な増加になる可能性が高まっていること、③08年度補正予算の効果から、公共投資が増加しつつあること、などが影響していると思われる。なお、4-6月期の成長率コンセンサスは+1.63%だが、高めの成長率を予想している8機関の平均は+4.05%となるなど、4-6月期がかなり高い

成長になるとの見方もある。また、7-9月期についても+2.24%と、前月調査の+1.81%から上方修正されており、年度前半の景気に対する見方が徐々に上向いていることが確認できる。

もっとも、そのまま成長率が持続的に高まっていくとの見方は少ない。10年4-6月は+0.37%、7-9月期は+0.59%と、10年度前半にはゼロ%台にまで減速するとの見方がコンセンサスであり、低めの成長率を予想している8機関の平均では▲1%程度のマイナス成長が予想されている。経済対策の効果が10年度に剥落することが景気の下押し要因になると予想されているためと思われる。09年度については明るい見通しが増えてきたものの、10年度に対する見方は引き続き慎重さが目立っている。



○ 消費者物価見通しは大きな変化なし。原油価格の動向には注意が必要

消費者物価指数（コア）の予測値は、2009年度が▲1.35%（5月▲1.32%）、2010年度は▲0.48%（同▲0.44%）と、前月からほとんど変化がなかった。08年に生じた原油価格急騰の裏が出ることで09年7-9月期は前年比▲2%程度までマイナス幅が拡大するとの見方が引き続き大勢を占めている。また、09年10-12月期以降は、石油製品価格のマイナス寄与が縮小することからCPI全体でも下落幅が縮小していくと予想されている。もっとも、大幅に拡大した需給ギャップの存在を背景とする物価下落圧力が根強く残ることから、2010年度いっぱいCPIがマイナス圏で推移するとの見方が多い。

一点注意したいのが原油価格の動向である。足元では再び原油価格が上昇度合いを強めており、一時はWTIで1バレル・70ドルを上回る局面もみられた。しかし、今月の調査では、フォーキャスターが前提としている原油価格の見通しは09年度平均で56.66ドル、10年度平均が62.66ドルであり、足元の価格と比べて低めだ。仮にこの先、景気回復期待の強まりや投機資金の流入から原油価格がさらに上昇を続けていくようであれば、CPIもコンセンサスを上振れるリスクがあるだろう。

